

4 世界遺産の登録基準への該当性

(1) 資産の適用種別と世界文化遺産の登録基準

□ 適用種別 「記念物」「遺跡」「文化的景観」

□ 登録基準 i)・iii)・iv)・vi) に該当

i) 人間の創造的才能を表す傑作である

行者道の構成要素として三徳山特有の自然環境の中に配置された国宝奥院投入堂を始めとする建造物群は、優れた設計思想のもとに信仰の根源である自然環境との調和を見事に実現した人間の創造的才能を表す傑作である。

iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）

三徳山には山林寺院・修験の霊場として1,000年以上の歴史があり、近世には藩の加護を受け、藩主の祈祷を行う重要な寺院であった。今も三徳山には三佛寺を中心に貴重な宗教儀礼や祭礼行事が地域に継承されている。また、現存する建造物にとどまらず、山内には峰入りした修験者達の行場跡、中近世の寺院・僧坊跡等の遺跡が埋蔵されており、参詣者の道標である石造物が今も点在している等、信仰に関わる文化的伝統を現在に伝えている。

iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本

中世以降、仏教寺院としての三徳山は衰退と再興を繰り返してきた。その中で、行者道を構成する建造物群は本来の姿を失うことなく今に伝えられており、国宝奥院投入堂は日本国内で発展した独自の建築様式を示す神仏習合を表す建築の最古例として、歴史上、芸術上の建築的価値が高い。また、三徳山の建造物には急峻な地形を巧みに利用した懸造に代表される高度な建築技術が用いられており、優れた建造物と自然環境の融合により、自然崇拜を具現化した景観を代表する顕著な例である。

vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）

三佛寺を中心に伝統的な宗教儀礼、祭礼行事等が継続されているだけでなく、中世以来、三徳山に関わりの深い集落には今も三徳山の祭祀を支えてきた世襲制の株組織等の民俗慣行が存続している。三徳山は信仰とともに育まれてきた生活文化や伝統が、今も変わらない自然景観に包まれながら生き続けており、信仰を介在して人と自然の共生を表す事例として、東アジア地域における同種資産の模範例である。

(2) 真実性・完全性の証明

本資産を構成する記念物及び遺跡については、所有者を始め、国及び地方公共団体によって適切に保存管理が行われており、形状・意匠、材料・材質、伝統・技能・管理体制、位置・環境、精神・感性のいずれの点においても資産の価値を損ねることなく良好な状態を保っている。

また、記念物及び遺跡を構成要素とする文化的景観についても、原生的な自然環境の保全はもちろんのこと、宗教儀礼や伝統的な祭礼行事、生活文化もそれぞれの価値を損ねることなく継続されており、適切な保存管理計画の下に適切な調整を行うことで、資産の真実性・完全性を保つことが可能である。

①形状・意匠

本資産の地上に存在する木造建造物又は石垣、石塔等の構造物は伝統的な解体・修理等が適切に行われることによって、建造時の形状・意匠を良好に保たれている。また、近代以降に行われた保存修理では、後世の修理・改変によって価値を損ねている不要な部材等を撤去し、必要に応じて復原、復旧が行われている。

行者道は人の往来によって形成された踏み分け道であるが、奥院投入堂までの参詣道として機能している今でも行者道としての形状・機能を良く保っている。風雨災害等による倒木の撤去、路面表土の風化や流出等の小規模な被害については、維持管理の範囲で復旧を行い、現状の維持を図っている。

また、名勝・史跡の指定地内には、照葉樹林からブナ林帯へと変遷する植生の垂直構造が良好に残されており、今も信仰の基盤をなす原生的な自然環境が健全な状態で保全されている。

②材料・材質

木造建造物は、腐朽、虫害、風雨による劣化、破損等の危険に常にさらされており、修理が必要な場合には、必要最低限の修理を原則とし、劣化又は破損している部分又は部材のみを取り替え、可能な限り当初材を残す措置を講じている。

また、新材の補填も同種材を用いることとし、取り替えられた部材のうち、建立時期等を示す重要な部材については別途保管することとしている。近世に築かれた石垣の修復については、当初部材を原位置に戻すことを徹底し、同種石材を使用することで真実性を確実なものとしている。

③伝統・技能

宗教法人や地元の人々によって宗教儀礼や祭り行事が継続されており、近年、第2次世界大戦を契機に途絶えていた行幸行列等の祭礼行事が復活する等、三徳山の伝統は良好に保持されている。

④位置・環境

本資産に含まれる記念物、遺跡等の構成要素はすべて造営・製作された当初の位置を踏襲している。また、発掘調査によって明らかとなった地下遺構は原位置での保存措置を講じている。また、原生的な自然環境も良好に保たれており、今も信仰の空間の神聖性を醸成している。

⑤精神・感性

三徳山という信仰の山には、山肌に露出する岩塊や滝等、古来から信仰を集めてきた神聖な場所が確実に保持されており、その中心にある三徳山三佛寺では、宗教儀礼や祭礼行事が今も継続されている。また、三徳山周辺の集落には今も行事の担い手となる株組織が存続するなど、三徳山という信仰の山に対する精神・感性の完全性は高い。

(3) 類似遺産との比較

三徳山には、人と自然環境との調和によって顕在化した信仰の山に形成された文化的景観が極めて良好に保存されている。これを端的に表すのが急峻な地形に建造された建造物群である。三徳山の建造物は山林修行の場である行者道に立体的に配置されるが、懸造という手法によって自然との調和が示現している。

同種の遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」があるが、原生的な自然林が広範囲に良好に残されている三徳山と異なり、人工的な植林が多くを占めている。建造物にも三徳山に認められる思想と手法は見られない。また、「巖島神社」は信仰対象である島を避け、海上に貴族の邸宅を模した建造物を集中的かつ平面的に配置しており、人と自然との関わり方を含め、その設計思想は三徳山と根本的に異なっている。

一方、国外には、中国に道教を信仰の背景とする「武当山の古代建築物群」がある。しかし、山上に土台を形成し、平地の宮殿を模した建造物を配置する点で三徳山とは性格を異にする。また、同じ中国の「懸空寺」には懸造による建造物群が存在しており、その外観は投入堂に類似する。しかし、それらは崖下の河川増水対策及び交通確保を主な立地的目的としており、信仰を背景に自然景観との調和を誇る投入堂に代表される三徳山の懸造と同類とはいえない。

数ある宗教・信仰・習俗に係る山岳・島嶼及び巡礼道・参詣道等の同種資産の中であって、三徳山は信仰の場、宗教施設群としての歴史的価値が高いだけでなく、信仰の空間として、時代を越えて人と自然との関わりを表現した文化的景観の顕著な事例である。